

令和7年度 第1回苫小牧市消費生活審議会開催結果（会議録）

開催日時 令和7年6月2日（月） 午後3時00分～4時20分

開催場所 苫小牧市民活動センター 3階会議室2

出席者 【委員】

福本達也委員、千葉武徳委員、今野佑亮委員、長山愛一郎委員、田中敏彦委員、田中一夫委員、横山誠一委員、榎本郁子委員、山内幸子委員、坪田比斗美委員、石川史子委員（11名出席、1名欠席）

【市・事務局】

柴田市民生活部長、辻川市民生活部次長、畑島市民生活課長、疋田市民生活課副主幹、増岡市民生活課主査

《会議概要》

- 1 開 会
- 2 委嘱式
- 3 副市長挨拶
- 4 会長・副会長選出
- 5 議 題
 - (1) 令和6年度 消費者行政の取組状況について
 - (2) 令和7年度 消費者行政の取組について
- 6 その他
- 7 閉 会

4 会長・副会長選出

会長・副会長の選出について、委員より事務局一任との意見があり、各委員の賛同を得た上で、事務局案どおり、会長には福本委員、副会長には山内委員が選出された。

5 議題（要旨）

議題の説明に先立ち、前回令和7年2月に開催した審議会において、委員からの提案に対し事務局が回答を保留していた件について、以下のとおり検討結果を報告した。

南委員からの「市が行っている事業の発信について、カジュアルでわかりやすい発信方法を検討してはどうか」という提案については、現在行っている市のHPや広報とまこまい、くらしのニュースなどの媒体による発信のほか、今後はFacebookやInstagramの活用を取り入れていきたいと考えている。

城川委員からの「物価上昇の関係で、『くらしのニュース』に節約方法を掲載してはどうか」という提案については、令和6年6月号に省エネ・節電のヒント、8月号に野菜の高騰を乗り切る節約術、10月号にプライベートブランドの購入による節約について、取り上げている。今後も物価高騰が続いていくものと思われるので、市民の皆様に参考となる節約方法を紹介していきたいと考えている。

(1) 令和6年度 消費者行政の取組状況について

資料により、事務局から説明を行った。

(坪田委員)

特定計量器定期検査は、昨年度は東地区で行ったとありましたが、今年度はどうなっていますか。規模はどれくらいですか。

(事務局 足田副主幹)

2年に一度の検査となり、今年度は西地区で行います。戸数では、東地区と同じような規模となります。

(2) 令和7年度 消費者行政の取組について

資料により、事務局から説明を行った。

(坪田委員)

小学校で出前講座ということですが、中学校以上では行っていないのですか。

(事務局 増岡主査)

これまでも高校や専門学校では数校行っています。

6 その他

(福本議長)

お集まりいただいたせっかくの機会ですので、委員の皆様から一言ずつご発言頂きたいと思います。今回の審議会の感想でもよろしいですし、日頃消費生活で感じていることでも、何でも結構です。

(千葉委員)

幼稚園での講座がなかなか良い取組だと思いました。

(今野委員)

過去に金融機関として金融教育を行っていた経緯があるので、詐欺に遭わないための出前講座などで力添えできればと思っています。

(長山委員)

計量行政については、あまり知られていないと思うので、行政側からもう少し発信していけば良いのではと思います。

(田中（敏）委員)

消費者行政について、市民の中にあまり理解されていないと感じますが、逆に言うと、普段意識をしていないということは、消費者行政が浸透しているからかも知れないと思いました。

(田中（一）委員)

今後 Facebook やインスタグラムの活用に取り組んでいくということですが、無理をしない程度に頑張っていたきたいと思います。

(横山委員)

自分たちが行っていくことをどう伝えるかが大事で、今回のように会議を動画に撮って配信するというのは良い取組だと思います。今は決まった時間に何かを見るという習慣がなくなってきており、自分の空いた時間で15分位の情報伝達というのが効果的なので、試行錯誤しながら進めていっていただければと思います。

コープさっぽろでは、食育や消費の取組として、「食べるたいせつフェスティバル」を行っていますので、コラボしていくことにより情報発信力が強くなると思います。また、職員の伝える力を付けるために、東京の仕事体験施設キッザニアに毎年300人ほど研修に行ってもらい、食べフェスの充実につなげています。行政職員にもこういった機会を活用して、自分たちの伝える力を養っていただければと思います。

(榎本委員)

自分の町内会で消費者センターの出前講座・出前寸劇を行ってもらいましたが、報告を見て件数が少ないと感じました。とても勉強になりましたので、もっと宣伝に力を入れていただければと思います。

(山内委員)

10月11日（土）にこの市民活動センターで消費生活展を開催しますので、委員の皆さんには是非参加していただければと思います。

田中委員にお聞きしたいのですが、消費者協会で市の委託事業の燃料価格調査を行っていますが、この一週間くらいで急激に価格が下がりました。国からの補助金が変わらないのに、どうしてでしょう。

(田中（一）委員)

石油製品の価格は、為替と原油価格に影響されます。現在は、為替が円高に振れており、原油価格が下がっています。仕入れ値が下がっているところに補助金が段階的に投入されたことが相まって、価格下落となっています。ただ、経営的に体力のあるスタンドの価格に他のスタンドが引っ張られている側面はあります。

そこで、少しお話しておきたいのは、地場のスタンドは体力的に弱いので、地域の相場より1円、2円高い価格となっています。でも、胆振東部地震のような災害時には、皆さん自宅近くの地場のスタンドに行きますので、いざという時のためにも若干高めかもしれませんが、地場のスタンドを利用し守っていくという視点を持っていただければと思います。

(坪田委員)

皆さんのお話を、こういう視点もあるのだと楽しく伺っていました。

(石川委員)

私は、PTAの役員として学校に長く関わっていました。小学校では、携帯電話の使い方の講座などがありましたが、こういった行事の大切なところは、楽しさではないかと思っています。資料を見ると、子供たちを引き付けるような工夫をされている気がしました。また、活動の周知に課題があるとのことでしたが、アプローチはしているのに、受け手は気が付かない、残らないということがあります。これは、「押し」のような好きなこと、興味のある情報は取りに行くが、それ以外は入ってこないというような時代背景もあるかと思います。ただ、勉強したいとき、困ったときに必要な情報を取りに行ったときには、それが取れるという状況を作り出してくれていることに気が付きました。

消費生活サポーター養成講座のようなボランティア事業は、難しい面があると思いますが、楽しさを持ってみんなで作っていくような取組にすると、人が集まってくるのではないかと思います。

(事務局 畑島課長)

ありがとうございました。情報の周知など、至らぬ部分がありますが、いろいろと新しいことを手掛けていきたいと思っています。

事務局から今後のスケジュールについて説明いたします。今年度は、令和5年度に策定した「第2次苫小牧市消費者教育推進計画」5年間の中間年に当たりますが、計画の中間見直しについて、これまでの経過と、現時点の事務局の考えをお話させていただきます。

昨年の市議会において、カスタマーハラスメントの防止策を、計画に盛り込むべきではないかとの意見が出されました。カスハラは、消費者側からの過度なクレーム・言動で、国では、関係省庁が連携して啓発活動を展開しており、北海道を始め東京都や群馬県などで防止条例が制定されています。

消費者教育の視点では、消費者がカスハラに加害者にならないための教育・啓発が考えられますが、計画を見直す必要があるのか、既存の施策で対応していくのかを、検討していきます。そのほか、国の消費者行政において、計画見直しが求められるトピックは、今のところ出ていないと認識しておりますが、今後、見直しの必要性について精査していきます。

今後のスケジュールとしましては、見直しの検討結果を庁内連絡会議において議論し、その結果を11月予定の第2回審議会にお諮りしたいと考えています。

なお、次回の審議会の日程等は改めてご連絡いたします。

(榎本委員)

確認ですが、検討した上で大きな変更がなければ計画の見直しまではしないということでしょうか。

(事務局 畑島課長)

そのように考えています。

(福本議長)

今後計画の見直しの検討を進め、11月までにその結果を委員の皆さんに報告していただければと思います。